

資金調達会議議事録：新規プロジェクトのための追加融資と製品Xの将来性に関する懸念

開催日: 2025年3月12日 **場所:** 本社会議室A **出席者:** 財務部長、企画部長、営業部長、[銀行担当者名]（〇〇銀行 融資担当） **記録者:** 財務部 [担当者名]

1. 概要

本日開催された資金調達会議において、[新規プロジェクト名]のための追加融資について〇〇銀行との協議を行いました。当社はプロジェクトの重要性と将来的な収益貢献について説明を行いましたが、銀行側からは当社の主力製品である「製品X」の市場における将来性、特に競争環境の変化と収益性への影響について強い懸念が示され、追加融資の可否に関する回答は保留となりました。本議事録は、会議における主要な議論の内容と今後の対応をまとめたものです。

2. 新規プロジェクトと追加融資の要請

2.1. 新規プロジェクトの概要

当社は、[新規プロジェクト名]を計画しており、これは[プロジェクトの目的、例：AIを活用した次世代生産ラインの導入、新規市場への参入、大規模な研究開発投資など]を目指すものです。このプロジェクトは、当社の今後の成長戦略において極めて重要であり、中長期的な収益源の確保と競争力強化に貢献すると見込んでおります。

- プロジェクト期間:** 2025年4月1日～2026年3月31日（予定）
- 総投資額:** 〇億円
- 期待される効果:** [具体的な効果、例：生産効率20%向上、新規顧客層10万人獲得、売上高〇億円増など]

2.2. 追加融資の要請内容

新規プロジェクトの実施にあたり、設備投資および運転資金として、以下の内容で〇〇銀行に追加融資を要請いたしました。

- 融資額:** 〇億円
- 期間:** 5年間
- 使途:** [具体的な使途、例：設備購入費用、人件費、研究開発費など]

3. 銀行側からの懸念と質疑

〇〇銀行の[担当者名]様からは、当社の事業計画、特に製品Xに関する深い懸念が示されました。主な質疑応答は以下の通りです。

質疑1：製品Xの市場競争力について

銀行担当者: 御社の主要製品である製品Xは、数年前までは市場をリードしていましたが、最近の市場調査では、競合他社、特に[競合他社名A]や[競合他社名B]の新製品が急速にシェアを伸ばしていると報告されていま

す。製品Xの市場における競争力は現在どのように評価されていますか？また、今後の市場シェア維持・拡大に向けた具体的な戦略をお聞かせください。

営業部長（回答）： ご指摘の通り、製品Xを取り巻く市場環境は近年厳しさを増しております。特に[競合他社名A]は低価格戦略で、[競合他社名B]は高機能モデルで攻勢をかけています。しかし、製品Xは長年にわたる顧客からの信頼と、[具体的な強み、例：高い耐久性、アフターサービスの充実]において依然として強みを持っています。今後は、既存顧客の囲い込みを強化しつつ、[具体的な戦略、例：ニッチ市場への特化、バンドル販売の強化、デジタルマーケティングによるブランド再構築]を通じて、差別化を図ってまいります。

質疑2：製品Xの収益性への影響について

銀行担当者： 競争激化は価格競争を引き起こし、製品Xの収益性を圧迫する可能性があります。貴社の直近の財務諸表でも、製品X関連の売上総利益率が低下傾向にあると拝見しております。この状況が続いた場合、貴社全体の財務健全性、ひいては新規プロジェクトの返済能力に影響が出ると考えますが、この点についてどのように対応されますか？

財務部長（回答）： 製品Xの収益性低下は認識しており、コスト構造の改善に喫緊に取り組んでおります。具体的には、[具体的なコスト削減策、例：海外調達先の見直し、生産工程の効率化、サプライヤーとの再交渉]を進めており、これにより製造コストの削減を目指します。また、[新たな収益源の確保策、例：サブスクリプションサービスの導入、高付加価値モデルの開発]により、製品X単体だけでなく、関連事業全体での収益力向上を図ってまいります。これらの施策により、新規プロジェクトの収益性と返済能力は十分に確保できると判断しております。

質疑3：新規プロジェクトと製品Xの関連性

銀行担当者： 今回ご提案の新規プロジェクトは、製品Xの将来性とどの程度関連しているのでしょうか。もし製品Xの市場競争力回復が遅れた場合、新規プロジェクトの収益性や当社の全体的な成長戦略にどのような影響が出るとお考えですか？

企画部長（回答）： 新規プロジェクトは、製品Xの将来性を直接的に支え、さらに強化するためのものです。例えば、[プロジェクトと製品Xの関連性の説明、例：新生産ラインは製品Xの品質向上とコスト削減に直結し、次期モデルの開発を加速させます。]。製品Xの競争力回復が遅れることは、新規プロジェクトの成果最大化を阻害するリスクがあることは認識しております。しかし、新規プロジェクトは製品Xだけでなく、将来的には当社の他の製品ラインナップや新規事業への応用も視野に入れており、単一製品への依存度を低減する効果も期待できます。

4. 会議の結論と今後の対応

銀行側は、当社の説明と対策について一定の理解を示しつつも、製品Xを取り巻く市場環境の不確実性と、それが新規プロジェクトの収益性に与える潜在的な影響について、さらなる精査が必要であるとの見解を表明しました。そのため、追加融資の可否に関する最終的な回答は保留となりました。

当社としては、今回の会議で得られた銀行からのフィードバックを真摯に受け止め、以下の対応を速やかに実施いたします。

1. 製品Xの競争力強化策の詳細化:

- 営業部門、開発部門、マーケティング部門が連携し、製品Xの市場競争力回復に向けた具体的なアクションプランとKPI（重要業績評価指標）を策定します。
- 特に、直近の競合他社の動向を詳細に分析し、製品Xの差別化戦略をさらに明確化します。

2. 新規プロジェクトの財務計画再精査:

- 製品Xの収益性に関する懸念を考慮に入れた上で、新規プロジェクトの財務シミュレーションを再実施し、リスクシナリオにおける返済能力を改めて検証します。
- 必要に応じて、資金調達計画の柔軟性について再検討を行います。

3. 銀行への追加説明資料の準備:

- 製品Xの競争力強化策の具体性、および新規プロジェクトの財務健全性を示すための追加資料を作成し、銀行に対して早期に提出します。
- 特に、製品Xの強みと、それに加えて新規プロジェクトが当社全体にもたらすシナジー効果を強調します。

4. 定期的な進捗報告:

- 製品Xの競争力回復および新規プロジェクトの進捗について、定期的に銀行へ報告する体制を構築し、透明性を確保します。

5. 次回協議

上記対応を踏まえ、〇〇銀行とは[具体的な日付、例：2週間以内]を目途に再度協議の場を設けることで合意いたしました。

以上